

株式会社 ファー・イースト・ネットワーク

認定テーマ名：積層樹脂フィルムのマテリアルリサイクルの事業化



P P リッチなシート



P E リッチなシート

1. 認定事業の現況

本事業は、グラビア印刷工場で印刷された食品包装用に使用される積層樹脂フィルムの不良印刷物スクラップを再生したペレットの製造・販売を主体とする事業である。再生ペレットを樹脂製品の成形業者、再生ペレット専門のコンパウンド事業者などへ販売する。

ラミネートフィルムは、食品包装用に多用されているが異質な樹脂フィルムで積層されているためリサイクル不可能であり産業廃棄物として焼却か埋め立て処分されていた。しかし、連携企業と開発した相容化剤によってリサイクルが可能となり、廃棄物が有価物化し、現在このスクラップ原料を利用して、安価な養生シートを製造した。

写真は、PEフィルムにアルミ箔がラミネートされたフィルムを原料とした養生シートである。コシのあるPPリッチなシートと、柔軟性のあるPEリッチなシートの2種類を用意した。

認定前後からトライしていた積層樹脂フィルムのリサイクルについて、大手上場会社の工場から排出される積層樹脂フィルムをリサイクルしている。印刷工場にとっては、廃棄費用の削減の効果と不良フィルムの流用等の防止効果および有料引取りによる企業のコスト削減といった環境経営に役立っている。

現在、リサイクル原材料の販売から用途開発を進め、最終商品の製造販売の事業化を進めている。そのひとつに養生シートがある。目下の市場は、バージン原料の代替材となっているが、リサイクル原料を使用した安価なシートとして上市されはじめ、販売先としては、引越事業者、建設関連事業者、物流事業者、ホームセンターなどに対して事業化を進めている。

2. 今後の展望（見通し）

まだマテリアルリサイクルができていない積層樹脂フィルムが残っているが、積層フィルムは用途拡大とともに多層化・多様化し、アルミ箔付きフィルムなどもそのうちのひとつである。印刷工場から排出される廃棄積層フィルムの全てがリサイクルできるように、技術開発を継続していく。

3. 認定を目指した経緯

創業直後に開発した技術であったため、大手工場などからの信用を得ることが難しかった。そこで、新連携による、資金的な援助というよりも、ベンチャー企業の信用力を補完するという側面に強く魅力を感じ、認定を目指すことを決意した。当初は、リサイクルの可能性を証明し各種の再生樹脂ペレットの機能性と価格をはじき出すため、つくば市に24時間操業の工場を設置しテスト加工を行うとともに生産にも着手したが、本社と工場の管理の難しさから生産工場は分離独立させ経営体も別にして今日に至っている。

4. 利用した中小機構の支援策

中小機構の専門家が同業の新連携認定企業を紹介し、その後、取引開始に至った。

中小機構が主催する中小企業総合展にも出展し、プレゼンの機会を得ることができた。

新連携の支援策以外にも、中小機構にはいろいろな支援メニューがあり、その中の販路開拓コーディネーター事業にも応募した。

5. 企業概要

| | | | |
|------------|---|------|-----|
| 事業者名 | 株式会社ファー・イースト・ネットワーク | | |
| 本社所在地 | 東京都新宿区四谷 4-31 四谷 TS ビル 6 階 | | |
| ホームページアドレス | http://www.fareastnetwork.co.jp | | |
| 設立年月 | 平成 17 年 4 月 | | |
| 資本金 | 63,000 千円 | 従業員数 | 2 名 |
| 売上高 | 全体 200,000 千円、認定事業の売上高 343,000 千円 (累計) | | |

※平成 24 年 12 月 26 日現在

事業内容：

- ① プラスチックリサイクルのコンサルティング業務
- ② 国外の再生用プラスチック原料輸出販売価格の代理交渉業務
- ③ 再生用プラスチック原材料の輸出業務
- ④ 再生用プラスチック原材料の国内売買
- ⑤ リサイクルコンパウンド「マリコンR」の製造・販売

6. 認定事業の概要

| | |
|--------|--|
| テーマ名 | 積層樹脂フィルムのマテリアルリサイクルの事業化 |
| テーマの概要 | 従来、リサイクルが困難だった、異なる樹脂フィルム同士が貼り合わされた積層樹脂フィルムをリサイクル原料に加工する。 |
| 認定期間 | 平成 20 年 2 月 28 日～平成 25 年 2 月 27 日 |